

11月9日 月曜日

神戸新聞
夕刊分

何ちってホライン
「Go To トラベル」
の旅を。

毎日、殺伐とした
ニュースが多い中で
いつかこんなんびり
した旅を味わいたい。

あなた達には救
の人ではあるだろうが
オドリー・ハップバーンが
ふと現れろなそんな
小道を楽しみましょう。

ぐるっと音楽紀行

旅するピアニスト

赤松林太郎



イタリア・ローマ



2018年11月、5度目のイタ
リア・ローマ。路地裏のレストラ
ンで抜栓したフランスカーティの白
ワインが、11年間眠っていた記憶
の扉をゆっくりと押し開きまし
た。

都市に水を供給した石造りの水
道橋。並行する線路を走ってロー
マから半時間ほどのフランスカー
ティは、古くからワインの産地と
して有名な街。思い返せばフランス
カーティでリサイクルをした日も冷
たい雨が降っており、ローマ市内
の丘を下りる道すがら、行商人か
ら買った傘が重宝しました。この
時期の雨は長く尾を引きます。

19世紀で最も偉大なフランツ・
リスト（「ラ・カンパネラ」の作
曲者）を冠したコンクールは世界
各地にあります。ローマでも2
018年に設立され、その第1回
に審査員として招かれました。

会場はかつてのファルコニエー
リ宮だったハンガリーアカデミー
で、テヴェレ川に沿ったジュリア
通りの歴史ある美しい建物。10歳

物語へといざなう美しい小道



ジュリア通り川いずれも2018年イタ
リア・ローマ(赤松林太郎さん提供)

に満たない年齢から大人に等ま
ていくつかのカテゴリに分かれ
ていますが、どの演奏もこれが
コンクールであることを忘れさせ
るような人間性や芸術性を表し
ていました。

会場に最寄りのバス停が、ちょ
うとサンタンドレア・テッラ・ウ
アッレ教会の前でした。この教会
は、なによりも「トスカ」第1幕
の舞台として知られています。こ
のオペラが最も表しているのは1
800年のローマ、つまりナポレ
オン1世が北イタリアを再獲得し

てイタリア王国を建国する前、そ
の不穏な政局を反映した空気感で
す。

第2幕はローマの警備總監スカ
ルピアが主人公となりますが、反
ナポレオン派の彼が公邸に使った
ファルネーゼ宮が現在のフランス
大使館であることも、このオペラ
を理解する上で重要な鍵となりま

す。ローマにおけるファルネーゼ
家の栄光と権謀の数々については
知られるところです。

そして終幕はサンタンジェロ
城。ここは歴代の教皇によって強
が暗躍したにちがいありません。

ローマを歩いていると、この全
3幕の舞台を結ぶ線がジュリア通
りであることに気がきます。貴族
の豪邸が立ち並ぶこの美しい小道
も、夜は闇が深く、多くの暗殺者

が暗躍したにちがいありません。

歴史に翻弄される人間の強さとも
ろさ、限りある命、気高さと思
さ、愛と憎しみ、飢え、葛藤。人
間の持つ尊厳や愛の深さと、それ
を一握りてつぶしてしまう権力の
暴力性といった二律背反。

古代より2千年以上にわたる、
この街には多くの芸術が残されま
した。芸術は人が精いっぱい生き
たことの証し。ローマにひかれる
のは、ローマそれ自身が物語だか
らに他ならないでしょう。

◇第2月曜に掲載します。



第1回リスト国際音楽コンクール
(ローマ)。中央が赤松林太郎さん



あまつ・りんたろう 1978年、大分県生まれ。2歳
から神戸で育つ。兵庫高、神戸大発達科学部卒。パリ・
エコール・ノルマル音楽院高等演奏家資格首席取得。2007
年に帰国し、国内外で活動。洗足学園音楽大客員教授、
大阪音楽大特任准教授。神戸市在住。

